

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
73209	2	後期	必修	2	30
授業科目名 (英文)	老年看護援助論Ⅰ（健康生活援助） (Health Promotion of Gerontological NursingⅠ)				
担当教員名	山本 由子／山花 令子				
授業の概要及び到達目標					
<p>概要 本科目の目的は、高齢者と家族の「からだ」「こころ」「暮らし」「かかわり」「生きがい」の5側面から高齢者の健康生活の特徴をとらえ、高齢者と家族の健康生活を支援する老年看護の理念、目標、及び方法について学習することにある。</p> <p>授業の前半は、老年期の「からだ」「こころ」「暮らし」「かかわり」「生きがい」の変化から高齢者とその家族の健康生活の特徴を明らかにするとともに、老年看護の理念、目標と対象のとらえ方について学習する。</p> <p>後半は、老年期に特有な生活機能障害を取り上げ、アセスメントと予防・補完・代替・調整などによる高齢者とその家族の自立支援看護方法について学習する。</p> <p>到達目標 ①高齢者にみられる「からだ」「こころ」「暮らし」「かかわり」「生きがい」の変化と生活への影響について説明できる。</p> <p>②老年看護の理念、目標について説明できる。</p> <p>③統合体としての高齢者のとらえ方について説明できる。</p> <p>④高齢者の健康生活支援看護方法（食生活支援看護、排泄支援看護、防衛機能支援看護、生活リズム支援看護）について説明できる。</p>					
準備学習等					
<p>①初回授業時に講義資料を配布するので、予習をして授業に臨むこと。</p> <p>②第5回～第14回の授業開始時に、それぞれの授業内容に関連する基礎知識や前回の授業内容の復習状況を確認するための小テスト（10分程度）を実施する。小テストの範囲や方法等については第1回の授業時に説明する。</p> <p>③第6回～第14回の授業においては、各自が講義や演習の内容を予習してくることを前提に、教員が解説を行うという授業方法をとるので、第1回目授業時に配布する授業資料についてテキストおよび参考資料を必ず熟読して授業に臨むこと。</p>					
成績評価の方法	小テストの成績40%、定期試験の成績60%で評価する。				

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正木治恵他,「老年看護学概論『老いを生きる』を支えることとは」改訂第2版, 南江堂, 2016
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 真田弘美他編,「老年看護技術:最後までその人らしく生きることを支援する」改訂第2版, 南江堂, 2018 ・ 亀井智子編,「根拠と事故防止からみた老年看護技術」第2版, 医学書院, 2016 ・ 井口昭久編,「これからの老年学」第2版, 名古屋大学出版会, 2008 ・ 内閣府編,「高齢社会白書」, 内閣府, 2018 ・ 中島紀恵子他監修,「高齢者の生活機能再獲得のためのケアプロトコール」, 日本看護協会出版会, 2010 ・ 島田裕之,「フレイルの予防とリハビリテーション」, 医歯薬出版, 2015 ・ 鳥羽研二監修「高齢者総合的機能評価ガイドライン」, 厚生科学研究所, 2003
備考	<p>①本科目は、老年看護援助論Ⅱの基本となる科目であるのでその点を十分理解して学習するように。</p> <p>②本科目の単位取得は、老年・在宅看護学実習の履修前提条件である。</p> <p>③各教員のオフィスアワーについては、デスクネットを参照してください。</p>
授 業 計 画	
<p>第 1 回 老年看護援助論Ⅰのガイダンス</p> <p>第 2 回 老年看護学の対象となる人々の特徴</p> <p>第 3 回 統合体としての高齢者①</p> <p>第 4 回 統合体としての高齢者②</p> <p>第 5 回 統合体としての高齢者③</p> <p>第 6 回 高齢者の食生活を支える看護</p> <p>第 7 回 高齢者の排泄を支える看護</p> <p>第 8 回 高齢者の食生活・排泄を支える看護①</p> <p>第 9 回 高齢者の食生活・排泄を支える看護②</p> <p>第 10 回 高齢者の防衛機能を支える看護①</p> <p>第 11 回 高齢者の防衛機能を支える看護②</p> <p>第 12 回 高齢者の防衛機能を支える看護③</p> <p>第 13 回 高齢者の生活リズムを整える看護</p> <p>第 14 回 高齢者の対象理解①</p> <p>第 15 回 高齢者の対象理解②／まとめ</p>	